

KOBE YMCA NEWS



神戸青年 No.634

2015.1・2 Jan・Feb

発行所 日本YMCA同盟 東京都新宿区本塩町7
THE YMCA神戸版 発行人/水野 雄二 編集人/田村 光
神戸YMCA 〒650-0001 神戸市中央区加納町2-7-15
TEL. 078-241-7201 FAX. 078-241-7479
URL http://www.kobeymca.org 印刷/わかばやし印刷

神戸YMCA
年間聖句

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。

(テサロニケ信徒への手紙 一 5:16~18)

チャリティーラン報告



去る11月3日、今年で17回目をむかえる『神戸YMCAインターナショナル・チャリティーラン』が行なわれました。心配されていた天候も晴天に恵まれ、時折、吹く風はつめたいものの絶好のランニング日和となりました。

開会式では、全国YMCAの大会委員長である有森裕子さんのメッセージを皆で耳を傾け、神戸YMCAの美崎晋実行委員長の挨拶がありました。挨拶の中で、「皆さんで、笑顔あふれる大会にしましょう！」と参加されるランナーの皆さんにエールを送られました。その後、競技に入り、今年から新しい種目となった1/10マラソンを皮切りに、熱いランが繰り広げられました。小学生駅伝では子どもたちの日ごろ練習の成果が発揮されました。特にタスキの受け渡しなど、大人顔負けの鮮やかな手つきで、それぞれのチームのタスキが繋がれていきました。今年は、小学生駅伝での障がいを持つ子ども達のチームが参加しました。特に5年生の出走のタイミングでこれらのチームの走者を待つ姿は、障がいを持つ方々を支援するチャリティーランらしい場面で、小学生駅伝が他の駅伝大会とは違うことを感じて頂いたのではないのでしょうか。グループランは、チャリティーランの名物になりつつあり、過去最高の参加者でした。それぞれ個性あふれるコスチュームなどに身を包み、チーム全員で手をつないで笑顔でフィニッシュする様子はYMCAらしい和やかな雰囲気でした。

最後はお楽しみのラッフル大会で、支援企業からお預かりした豪華な賞品に歓声が上がりました。参加されたランナー、応援された方、それを支えたボランティアの皆さんの笑顔が広がり、思いが繋がった一日でした。お寄せ頂きました協賛金、参加費、当日バザー・ラッフル券の売り上げは大会運営経費を差し引き、全国ならびに神戸YMCAで行なわれます心身に障がいのある子どもたちや若者たちのキャンプに用いさせていただきます。

最後になりましたが、この大会のためにご支援、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。なお、大会実施概要は以下の通りです。参加者チーム 221チーム、参加者数 987名、ボランティア 175名、職員 71名、来場者 約1,500名。支援金総額(2014年11月28日現在) 967,486円。



迎春



会長 中道 基夫



総主事 水野 雄二

皆様にはご健勝にて新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

神戸YMCAは「新3ヶ年計画」(2012~2014年度)を終え、新しい計画実行期間を迎えます。昨年、三宮会館再開発事業の第1段階として「ファミリーウエルネスセンター」が完成し活動が広がっています。第2段階の新三宮会館建設も準備が整えられ、今年の夏には着工の運びとなります。新しい時代にふさわしいYMCA会館の建設に引き続きご支援いただければ幸いです。

世界も日本も、また私たちの地域社会も混沌とする時代にあって、新年もすべての「いのち」が光り輝くように活動を強めていきます。国内外で大きな災害が発生し、多くの人々が傷ついています。また、いじめや虐待による「いのち」の軽視が今なお増加している中、私たちは愛と奉仕の生き方を広めつつ、「いのち」に向き合っていきます。そのために公益財団法人、学校法人、社会福祉法人の各法人は、「ファミリーウエルネス」を目指し、健全な家庭形成のために子育て支援・健康促進・高齢者支援の事業を協力・連携して進めています。神戸YMCAの各施設には世代を超えた多くの市民が集い、交わり、自らの生き活きとした「生」を養うと共に、家庭や地域社会がより良い状態であるための活動を目指したいと願っています。

13年ぶりに総主事が交代し、新しい職員体制で2015年度をスタートします。公益財団法人、学校法人、社会福祉法人それぞれの活動の場に集まる多くの子どもたちや青年たち、また世代を超えた地域の人たちと共に、2015年度も活動を展開します。

本年も皆様のご参加とご支援、またご協力をお願い申し上げます。

未来への提言

二つの大震災を経験して

阪神淡路大震災当時、震源地から約6kmの我が家で被災したが、家族も家も無事だった。神戸YMCAは長田で奇跡的に残った旧西神戸YMCAに西神戸対策本部を設置。私は高田裕之本部長、小澤昌甲スタッフとともに多くの神戸内外のスタッフと、全国から集まったボランティアの力を借りて約2年弱、災害復興支援に従事した。

ボランティアのコーディネートを担当したが、多い日には200人を超えた。しかし3月のオウム事件に世間の関心が移り、春休みが終わるとボランティアは激減した。そして2年弱の活動が終結したときに私が感じたのは達成感よりも「何もできなかった」という後悔だった。「相手の立場に立って、住民が自立するお手伝いをする」という視点では、他の団体とは違ったYMCAらしい支援ができたと思う。

しかし、「非日常から日常への移行」「前からあったその地域、その人の独自の問題」に対しては対応できなかった。せっかく顔見知りになったおじいちゃんや、アルコール依存症で次々と亡くなる。分断されたコミュニケーションの再生、新生といった発想はでたものの、実現には程遠かった。

そして2011年。東日本大震災が起こり、たまたま御殿場東山荘Yに出向中であつた私は、盛岡Yが宮古にボランティアセンターを作るというので約3週間派遣された。

そこでのルールは前回の教訓を生かし、「住民の自立を援助する。」「作業も大事だが、まず住民の心に寄り添う。」「被災者ボランティアの関係をなく、宮古に一人でもいいから友達をつくって帰ってもらおう。」という3点に絞って、センターの基礎を作った。

これは11月に亡くなられた今井鎮雄さんの言葉から考えた。あるリーダーの「私たちリーダーは何を一番大切にしなければなりませんか?」の問いに「目の前にいる人、その人の生きる意味をあなたが一緒に考えていくことです。」と話されたのを覚えている。

おかげで、今でも20名近い人がまるで故郷に帰るように、今も全国から宮古に通い続け、宮古のコミュニティの一員となつて、寄り添い続けている。

YMCAの日常の活動を、大切に丁寧に質を高めておこなうことが、未来のYMCAだけでなく、災害時、非常時の対応にも生きると思っている。

日本YMCA同盟東山荘 副所長 佐久間 真人

学童保育



香櫨園育成センターは2012年度から、神戸YMCAが指定管理者として西宮市より委託を受けて運営している学童保育です。西宮市立香櫨園小学校の1～3年生の子どもたちが合計で114名利用しています。

年々増える子どもたちに、センターの部屋は満員状態！それでも子どもたちは元気いっぱい『ただいまー！』とセンターに帰ってきます。育成センターに入所したとき、子どもたちにプレゼントするのが『けん玉』です。1年生で初めてけん玉を手にするお友だちも多く、2～3年生にけん玉の出し方、直し方を教えてもらうところから始まります。初めて大皿に乗ったときの子どもたちの「うわ！ のった!!! のったで!!!」と嬉しそうな表情は、本当にキラキラしています。特に冬になると、育成センター独自のけん玉検定に向けて子どもたちは練習をします。子どもたちに負けないようにと、指導員も一緒になって必死に練習します。一つのことを集中してできる時間がある、ということの大切さをけん玉をする子どもたちの姿を見ていつも感じています。

育成センターは学校でもなく、家庭でもない場所ですが、子どもたちが第2の家だと思ってもらえるような場になることをいつも願っています。子どもたちと指導員が、嬉しい時は一緒に喜び、悲しいときは一緒に悩みを分かち合える、そんな育成センターでありたいと思います。

ホテル学科50周年に寄せて⑧



2014年10月21日、ANAクラウンプラザホテル神戸を会場に、神戸YMCA学院専門学校ホテル学科創立50周年の記念式典と祝賀会を行いました。

1960年代初頭、ホテル業界は、その発展の時期をひかえて、人材の獲得が急務でした。それは量的な意味のみならず、国際交流の場として、また市民の憩いと自己啓発の場として、それに直接かかわるホテルマンにふさわしい感覚とマナーを備えた、質的な意味での人材でした。1963年、日本ホテル協会兵庫県支部より平島健次郎氏〔オリエンタルホテル常務取締役総支配人(当時)〕を介し、神戸YMCAにホテルマン養成の依頼がありました。日本ホテル協会からの神戸YMCAに期待するものは、技術的なスペシャリストの養成であるよりも、人間教育でした。



神戸YMCAは1886年の創立以来、社会教育団体としての実績に鑑み、人間教育を主体とする専門教育の機関として、ホテル学校の設立を要請されたのでした。これはまた、東京YMCAが1935年、京都YMCAが1960年にホテル学校を設置しているという事実も加わっていたのです。神戸YMCAは、多様な青少年の興味に応えつつ、その一人ひとりが生活を通して、愛の行為を行う者として成長することを願っている団体であり、このことにおいて、日本ホテル協会の要請主旨と、神戸YMCAの目的とが一致したと理解し、1964年神戸YMCA国際ホテル学校を設立しました。

1977年には、専修学校制度にもとづき、神戸YMCA学院専門学校ホテル学科(2年制)・ホテル学専修科(1年制)として、新たな歩みを始めました。1988年4月に神戸市西区学園都市に移転をし、また2001年4月には、実習・就職・通学等の利便性を考慮し、中央区加納町へ再度移転をしています。そして2014年の現在、新しい会館(校舎)を神戸市中央区加納町の現在地に建設するべく、その工事が進んでおり、2016年度中に完成する計画になっています。



幼稚園



『世界のYMCAの人たちと共に』



今年度の「世界YMCA/YWCA合同祈禱週」は「変革をもたらす大胆なリーダーシップ」というテーマで、お祈りが献げられました。

今年も世界に100を超える国や地域に存在するYMCA/YWCAの仲間たちが、一同にお祈りを献げる喜びを感じながら過ごしました。毎年この祈禱週で、幼稚園では「世界中にYMCAがあり、たくさんの仲間がいること」を知ります。そして、テーマについても幼児なりに話し合い、お祈りを献げて過ごします。今年度は、出エジプト記のモーセ誕生の箇所が、主題となりました。子どもたちは、1日目にこの聖書のお話を先生方による劇で知りました。虐げられたヘブライ人に心を痛み、ファラオ王の命令に従うのではなく、神様の喜ばれる行いをしようとした助産師やモーセの母、モーセの姉の姿に「勇気がある!」「神様が喜んでる!」「僕たちも勇気を持っている!」と話す子どもたちでした。また、「スイミー」という絵本を見てお話遊びを楽しみました。「みんな集まって!」「離れずに泳ぐんだ!」と小さなさかなたちを励まして、大きなさかなを追い出すスイミーになって声を出し「勇気とリーダーシップ」を経験しました。年長組のグループワークでは、スイミーのお話の絵画制作をしたのですが、数人のグループの中でリーダーシップをとる人や、一緒に実現しようと協力する人と役割が分担されたり、交代しながら「感じる」「楽しむ」「思いやる」「やってみる」時となりました。

こうしている間も世界中では、様々な悲しい出来事も起こっていると思いますが、『世界のYMCAの人たちと共に』「変革をもたらす大胆なリーダーシップ」について考えお祈りを献げ、喜びを感じながら過ごした1週間でした。

保育園



YMCA保育園、西神戸YMCA保育園では国際DAYを行っています。国際DAYは様々な人との出会いから、世界を知るきっかけになることを願い毎年実施しています。

今回の国際DAYはインドのムンバイ出身のプリティさんをお迎えし「インドDAY」を行いました。プリティさんは「チュリダールクルタン」というサリーに似た民族衣装を来て登場。映像を使ってインドのお寺や市場の街並みや食事(手で食事をすること)、ガンジス川や豊作を願ったホーリー祭りの紹介を聞き、ヒンディー語を教えていただきました。そして、ヒンディー語で『あたま・かた・ひざ・ボン』の歌を一緒に歌ったり、各クラスを回り「ナマステ」と挨拶をしたり、ストップゲームなどをして交流を深めました。また、昼の給食はインド料理のチャールワル(ごはん)、チャパティ(パン)、ダール(まめのスープ)、チキンカレー、フィッシュティッカ(インド風香揚げ)、サブジ(蒸し野菜)、カチュンバル(酢の物風)を厨房の先生が準備。園児たちは「辛いね」「日本のお米と形が違うね」と感想を述べながら食事を楽しむこともできました。「肌の色が違ったり、話す言葉は違っても皆神さまに愛された大切な人」このことが子どもたちに伝わればと願っています。

新会館建築募金(感謝)

(前号掲載以降～11/30現在)

森本榮三、松岡義隆、澤田賢司、乙坂優次、樋口良廣、倉本剛志、関口美佐子、佐藤京、貝坂義子、井出浩・富光子、太田郁子、社会福祉法人光朔会理事長 山口元、安井真紀、為広かね子、中道晴夫、山口徹、神戸ワイズメンスクラブ、六甲バター株式会社取締役社長 塚本哲夫、藤原美也子、堤重彦、堤久子、大森直実・純子、岩井正好、河合睦文・純子、得能尚子、片岡實、神戸社交ダンスクラブ、武田建、高田千代子、宗行孝之介、加藤光信、今井鎮雄・幸子、神戸YMCAダイビングクラブOBOG会、濱地克己、雀部昌吾、大塚章信・敏子、堤康・恵子、松本潤子、川北道子、清水千歳、三島浩司、大谷真理、宮地京子、新野幸次郎、藤井千代、小山哲夫、館忠之、中島孝幸、安行英文、小田浩、中西美喜子、宇野由美子、青柳正志、廣瀬頼子、松本綾子、和田興産(株)代表取締役 高島武郎、有澤田鶴子、柴田美代子、山崎清治、川本龍資、株式会社アシックス、兵庫トヨタ自動車株式会社、伊藤ハム株式会社取締役社長 堀尾学、西垣二一、京極たつ子、藤井勝代、藤井道弘、嵐延子、坂本庸秀 (敬称略 順不同)

感謝・寄付

(敬称略)

【チャリティゴルフ】
大会名…第31回神戸YMCA
チャリティゴルフ大会
日程…10月22日(水)
場所…
若屋カンツリー倶楽部

収益金額…
約250,000円

子ども奨学金として…
38,530円

参加協力者…51名
足立 康幸、猪飼 惇二、
石丸 鐵太郎、市原 法雄、
井上 良一、岩谷 良男

上野 恭男、浦田 慶信
大江 彬甫、大田 靖之
尾上 尚司、柏原 佳子

桂 幸生、加藤 金行
上村 晋、黒崎 敬三

河野 彰、清水 泰人
高井 和代、武内 浩子

武田 寿子、多胡 葉子
都藤 啓己、堂本 将司
中板 健一、中尾 英輔

西川 顕彦、西澤 みどり
濱 浩一、濱 美智子

東谷 敏雄、広瀬 一雄
福原 吉孝、藤田 良祐

藤谷 能人、細見 史郎
堀江 裕一、松井 隆介

松田 福滋、万本 敬一
水野 雄二、光岡 和美

村上 純平、村上 みゆき
メロディレガスピ、

森 忠司、山口 政紀、
山口 洋子、山本 常雄、

山本 克己、吉田 透、
募金協力者…

阪根 新、安行 英文
小笠原 美根

今井鎮雄名誉顧問を偲ぶ

今井鎮雄先生を偲ぶ

名誉理事 宮田 満雄

先生との最初の出会いは1949年、私が高校1年でHi-Yの活動に参加し始めた頃だった。爾来先生が亡くなられるまで65年間親しくしていただきお世話になった。先生は当時28歳だった。私達は先生のことを「チンさん」と呼んでいた。おそらくこれは「鎮雄」の「鎮」からきていたのだと思うが、私達は先生の顎が長いことからその意味を込めて「チンさん」と呼んでいた。「知らない人は「陳さん」と思っていた人もあったようである。

紙面の都合上先生との交わりの中で懐かしく、また、感謝をもって心にとめていることを簡潔に記すことにする。

1951年夏戦後の日本で初めて開催された国際年長少年キャンプ（世界YMCA同盟主催、於野尻キャンプ）に先生に引率され武田建さんはじめ6名のメンバーと共に参加したこと。キャンプの公用語は英語であった。

1952年から4年間今井先生ご一家と起居をともにさせていただいたこと。私の大学生活4年間である。そしてこの期間余島キャンプで今井ディレクターの下に得がたい経験をつませていただいたこと。愉快的エピソードの多い楽しい交わりであり、その親交は今に至るまで続いている。

「今井さんに言われたら断りきれん」とよく言われるが、私も御多分にもれず「今井さん」に言われて神戸YMCAや日本YMCA同盟、挙げ句の果てには世界YMCA同盟のいろいろな役割を仰せつかった。今考えてみると先生抜きには考えられない貴重な体験であった。

先生とはよく外国でのYMCA関係の会議にご一緒した。アフリカ、南米、米国、英国、フランス、ギリシャ、イタリア、韓国、香港。

先生は私にとってある時は親父のようであり、また、ある時は兄のような存在であった。御霊の平安を心から祈る次第である。

大きな木 The Giving Tree

名誉理事 武田 寿子

今井鎮雄さんの業績はあまりにも広範囲で、不可能を可能にする実行力と弱いものに暖かなまなごしを注ぐ姿に影響を受けた方々は数知れないでしょう。私も若い日に余島キャンプで大きな影響を受けた一人で、今改めて今井さんの存在の大きさに気づき、喪失感を禁じえません。YMCAの理事長に選出され迷ってご相談した時に、背中を押して励まし、祈ってくださったことは忘れられません。YMCA運動、福祉・教育とその範囲は広く深く実践力に満ちていて多くの方々はその功績を語っておられるので、個人的な思い出になるのをお許しください。

1959年伊勢湾台風で被災した名古屋にいち早く救援隊を組織し、今井さんと被災地に入り全国のYMCAと協力して支援活動をしました。日本でボランティアという言葉も浸透していない時に、キャンプのリーダーたちを中心に多くの若者やYMCAのスタッフ、医療関係者などが応援に駆け付けたことは、当時の行政や、企業に大きなインパクトを与えました。あれから45年後の阪神大震災の時に、神戸YMCAが全国からやってきた支援者たちをまとめ、ボランティアセンターとして目覚ましい働きをしたのは、今井さんから引き継がれてきた人に対する「愛」、弱くされたものに手を差し伸べるといふ「実践力」があったからだと思います。

1985年神戸で開かれたユニバーシアード大会でも、兵庫県すべてに呼びかけ、ボランティア集団を結成し、選手村の副村長として、今までかわり育ててきた人脈を駆使し、選手団を支援し、大会を成功に導いたことは忘れられません。私もイラクの選手団の通訳をさせていただき、平和の大切さを肌で感じることができました。

「大きな木」Giving Tree という有名な絵本があります。リンゴの木と少年の物語で、リンゴの木が少年に困難な時にいつも手を差し伸べ、自分が切り株になっても幸せであったという物語ですが、まさに今井鎮雄さんは「愛とは与えること」を実践した大きな木であったといえるのではないのでしょうか。



伊勢湾台風被災地支援

追悼 今井鎮雄名誉顧問

総主事 水野 雄二

今井鎮雄名誉顧問が11月3日に召天された。93歳であった。今井顧問は第6代総主事として1960年代から80年代までの21年間、神戸YMCA発展の基礎を築かれた優れた指導者であった。また今井顧問は、神戸YMCAのみならず多彩で息の長い社会福祉運動を手がけ、戦後の神戸の発展に貢献された。全国初の肢体不自由児キャンプ、神戸いのちの電話、PHD運動など業績は数え切れない。その原点はYMCA運動であった。以下、神戸新聞に投稿した拙文で紹介に代えたい。

『今井さんが香川・小豆島の余島に開設した「神戸YMCA余島キャンプ場」には「人と出会い 神と交わり 愛の火のもえるところ」という今井さんの言葉が石碑に刻まれている。その言葉通り、キリスト教の信仰に基づき、人と人を出会わせ、神の世界に導き、人と人とを結ぶ愛の溢れる人生であった。

その余島には「地獄坂」と呼ばれる坂がある。食事に向かうときに通る何の変哲もない坂だが、肢体不自由児には大変な苦難を強いる。外に出したくない親たちを説得して始めた肢体不自由児のキャンプで、今井さんは子どもたちを励まし、困難を分かち合いながら坂を上った。どんなときも弱者への優しい視線を忘れず、社会への貢献を「実践する人」だった。

その「実践」が時代に応じて形を変え、福祉、ボランティア、国際協力、教育、地域支援などの多彩な仕事となって結実する。共通項を探せば、人に対する「愛」という言葉に集約されるであろう。

よく講演を依頼されると「若い者が年を取った私に『未来について語れ』って言うんだ。」と少しうれしそうに困ってみせたことを思い出す。未来の不確かな老人であったかもしれないが、その語る未来の姿は的確で示唆に富むものだった。

常に新しい時代を見据えつつ、人間が人間であること、人と人が共に生きることを皆が教えられた。今井さんからももらったギフトは神戸YMCAだけにとどまらず、関わった多くの団体、また兵庫県、神戸市などの行政機関にも及ぶ。今井さんから託されたボールを私たちはどのようにゴールに運んでいくべきか。ボールを受け取った者の責任をあらためて感じる。』

(神戸新聞2014年11月6日朝刊掲載)



余島



青年時代



執務中

今井鎮雄先生お別れ会

日 時 2015年2月8日(日)
午後3時より お別れ会及び献花(会費三千元)
事前に下記までお申し込みください。
午後4時30分より 献花
会 場 神戸ポートピアホテル ポートピアホール
発起人代表 武田 建

お問い合わせ・申し込み先
神戸YMCA本部事務局 電話 078-241-7201
FAX 078-241-7479

今井鎮雄名誉顧問を偲ぶ

キリストの命と証がどうあるべきかを絶えず問い、青少年と共に歩む ～「真ん中に立ちなさい」と手を差し伸べられた～

前総主事(名誉主事) 山口 徹

私が今井鎮雄さんという方を知りましたのは関西学院大学社会学部の1年の「社会問題」の講義でありました。現代社会において何が起きているのか、そこで人間として何を大切に生きるかという問いかけを若い学生である私たちにいつもされておられました。

関学中学部長より「君たちは、将来、いつも世のため、人のために何かができるかを考えられる人になって下さい」とことあるごとに教えられてきた私にとって、願ってもない感動的な授業でした。その後、武田 建先生のユーモアを交え、人間味あふれる「グループワーク論」を受講、神戸YMCA少年部並びにキャンプのボランティアとしてリーダートレーニングに参加させていただき、そこでも今井さんと武田先生にお会いし、大いなる感化を受け、私のそれからの人生の生き様を決定づけていただく結果になりました。

YMCAで青少年のために働かせていただきたいと今井さんに申し入れさせていただいた時、「所属教会の牧師と共に来なさい」と言われました。日本キリスト教団甲南教会初代牧師小池文雄牧師と共に出向き、今井さんからは「では君は教会から押し出されて、YMCAで証人としてその働きを十二分になしてください」と。そして、あの総主事室で牧師より「あなたは、どんな場合にも身を慎み、苦しみを耐え、福音宣教師としての仕事に励み、自分の務めを果たしなさい」(テモテⅡ 4:5)との聖書を読み、感謝と激励のお祈りをさせていただき、共に歩んでこられた事実の原点でした。

社会はいつも変動する。しかし、「教育とは変動する社会に適応させる方法ではなく、かえって社会をいかに変動させるのかを人間に考えさせる方法である」が、YMCAは、キリスト教精神に基づき、青少年の心身と人格の健全な向上をはかり、奉仕の精神を養い、もって民主的社会的発展に寄与するとともに、世界の平和に貢献するという大変大きな目的を掲げている。しかし、社会が良くなったといえども、その時々には必ず悩み、苦しむ青少年のことを決して忘れることなく、彼らを「真ん中に立ちなさい」(マルコ3:1-6)との思いを持ち、そして、如何に手を差し伸べるかを常に追求することの大切さを強烈に教えてくださったのは今井さんでありました。その業績を私がここで述べることは極めておこがましいですが、今井さんご自身が基本的にキリストの命と証がどうあるべきかを絶えず問われ、青少年をこよなく愛し、共に歩んでこられた事実の原点を述べるものです。

具体的には、コープこうべ、家庭養護促進協会、イエス団、PHD協会、いのちの電話、クロスカルチャーセンター、頌栄保育学院、啓明学院、関西学院ロータリークラブ、ワイズメンズクラブ、ひょうご子どもと家庭福祉財団、神戸市シルバーカレッジ、県・市社会福祉協議会、兵庫県青少年本部等々の理事長や役職に就かれ、そして、神戸YMCA総主事として21年間の長きにわたりご指導・ご活躍をいただきました。従って、今井さんは熱きキリスト教信託者、開拓者、先駆者、青少年教育指導者、社会事業家等々の冠りがつけられるのも当然のことは言え、教育・福祉・国際協力・ボランティアの領域において、すべて確固たるキリスト教の使命に基づき、多くの人の協力を絶えず得てその業に励まれました。そして、特筆すべきことは、いつもそれぞれの働きの原点を確認しつつ、また、決して見失うことなく、未来に向かって厳しく指導されました。その中から多くの次代の指導者が生まれ、その人たちが今、それぞれの分野で活躍されておられる現実があります。それは、いつでも、どこでも今井さんの活動における愛と献身の姿勢が表され、キリスト教のヒューマニズムが多くの人々の心を引きつけてこられた結果だと思えます。

今井さんから私にいただいた忘れられない言葉

「YMCAのプログラムはすべて祈りに始まり、祈りで終わるのだ！」
「これがYMCAのプログラムだよ！」(1970年早起きサイクリング教室で課題を持った5年生のメンバーが補助車をつけて、参加し、仲間のグループとは遠くかけ離れ私が伴走していた時、見学方々来てくださった今井さんも御一緒に自転車で伴走して下さった時の言葉)
「このプログラムは、すべて神様の御旨にかなっているか？」
「君は、ボランティアをさせているのか？ していただいているのか？ どちらだ！」
「目的をしっかり持ってプログラムを展開しているか？ プログラムはあくまで目的を達成するための手段だぞ！」
「反省と評価とは違う！ 反省は誰でもできる。評価をすることが極めて大切だ！」
「委員会において下さる委員に心から感謝しつつ準備しているか？」
「人間が人間としてより人間らしく生きることのできる社会なのかを今まさに問う時だよ！」
「今、YMCAは本当の意味で青少年の居場所になり得ているのか？」
今井さんとの出会いを心より感謝しつつ。

今井先生を偲んで 元神戸いのちの電話評議員 依藤 允子

今井先生の訃報に接し、今井先生はいつまでも元気でいてくださる方と勝手に思い込んでいた私は、驚くと同時に淋しい気持ちで一杯です。

今井先生は「神戸いのちの電話」の発起人であり、初代委員長でもありました。1981年6月20日に開局されましたが、その当時の日本は「産業社会」から「情報社会」に変化しようとしている時で、青少年は人との直接的対話を苦手とし、家族の中で孤立し始めていた反面、電話を通じてなら自分の悩みを素直に打ち明け合っている状況で、今井先生はそこに着目され、2年間の準備期間を経て開局されました。その10年前には「東京いのちの電話」も始まっており、全国で11番目の開局でした。私も二期生として最初から関わり、ソファや机、冷蔵庫、湯呑等、皆で家から持ち寄り、事務局の体制を整えるのが大変だった事を思い出します。それから現在まで33年間活動が続いていますが、一番大変だったのは、阪神淡路大震災のときでした。相談員で被災された方も多く、いつ再開できるか危ぶまれましたが、今こそしなければと、2月13日から再開しました。建物も三宮に移り、狭くて大変でしたが、皆様方の支援もあり何とか乗り越えました。その後努力の末、2002年社会福祉法人を取得することができました。現在は140人のボランティアで月1,300件、年間約15,000件の電話相談に応じています。今井先生は初期の頃からずっと、ボランティアとしての精神のあり方を説いておられました。私が27年間かわり続けてこられたのも、今井先生の薫陶のお蔭と感謝しています。私個人としましては「いのちの電話」の他にも、「生活協同組合コープこうべ」で理事として「福祉文化事業委員会」等でご一緒させていただき、常に時代の一歩も二歩も先を考えておられる先生の発言に、いつも刺激を受け勉強させていただきました。先生、ありがとうございました。

今井先生を偲んで 日本基督教団東神戸教会員 橋本 和子

思い出は尽きることがない。

アメリカでグループワークを学ばれ、その理論を関西学院で教えられた。青年今井先生との授業を通しての出会いの時だった。小グループは、春風駘蕩、穏やかな風に包まれていた。上ヶ原牧場と呼んだ中央の芝生で車座になり、また、時には、コーヒーを飲みながら学生食堂で教えを受けた時間が懐かしい。「グループの中で、個人は育っていく。グループという場を使って、メンバー個人の成長を助けようとしている。」まさに人間性の発達を大切にされた先生の実践の場だった。

先見性のある指導者であり、共に生きる愛の人であった先生のご逝去は喪失感を残した。今井先生の広い見識と奥行き、そして何よりもあたたかな人間性は人の心を捉えた。個々の悩みにも、また人生の大きな局面となる就職、結婚、別離にも、心をこめて関わられた。お話はユーモアがあり、魅力に満ちて説得力があった。人造りの妙に加えて、大所高所から判断される即決力には皆が指導者と仰いだ。大きな存在だった先生は、神の前には誠実な求道者であった。

「如何に生きるか」は生涯のテーマだったと語られる先生の信仰生活は、住吉町の観音林クラブを会場とした青年達の群れから始まり、広がっていった。東神戸教会はその源流が信徒運動であり、信仰の社会的実践を求めて集った青年達が担った。終戦後の荒廃した時代を、どの様に生きるべきかを中心テーマとして学び、そこには、先生の存在がおおきかった。戦時中、如何に死すべきかを問い続けたと語る先生が、終戦を境として、「如何に生きるか？」という思想の転換をされたのである。

先生は「神様 この生き方で、いいのですか？」と神と向き合い、「今日ちゃんと生きたか？」と、自ら問い続けた。市広い社会でのご活躍と、その足跡は残り、人々が語り継いでいく。「神との出会い」という神と人との縦の関係をゆるぎないものとしていくことを、先生は生涯を通じて大切にされた。神の許に帰られた今、その原点を学びつつ、神の導きを求めていきたいと願っている。



国際ロータリー元理事



神戸市社会福祉協議会会長

余島キャンプからはじまった活動

公益財団法人ひょうご子どもと家庭福祉財団 理事長 片岡 實
社会福祉法人ひょうご障害福祉事業協会

昭和28年、日本で初めての「小児まひの子どもキャンプ」を神戸YMCAで、今井鎮雄先生が開かれ、私はキャンパーとして参加しました。当時はワクチンもなく、多くの子どもが小児まひに罹患し、手足が不自由になりました。外に出て遊びたくても、障害のまねをして、からかう人も多く、家の中に閉じこもりがちでした。兵庫や大阪、香川などから30人ほどの子どもが集まり、グループごとにキャンプリーターのやさしいお兄さんやお姉さんがつき、整形外科や精神科の医師、看護師、栄養士、心理学者などの専門家も同行して小豆島の離れ小島、余島でキャンプが行われました。一人っ子で甘えん坊の私は、親から離れたことはなく、大声で泣き叫び、今井先生を困らせました。余島は坂道が多く、松葉づえの私には大変で、今井先生は最後におぶってくださいました。生まれて初めてのキャンプファイアーで、今井先生から『自分でできることに勇気を持って挑戦しよう』と言われ、翌朝から自分でできたことがなかったことも次々にするようになりました。クラフトの時間、危ないと持たされたことがなかったナイフで木を削り、リーダーの手を借りて海で泳ぐこともできました。すべてが初めての経験でした。リーダーや先生方に見守られ、障害があってもいやな思いをすることなく、のびのびと自分の力を出すことができました。今井先生から、『つらい時に、楽しかったキャンプを思い出し、自信を持って、前に進みなさい』と言われました。たくさんの障害のある子どもたちが余島キャンプで勇気もらい、社会に出ていくことができました。今井先生は、その後もずっと福祉社会を創るために活動され、ロータリークラブでもポリオ撲滅運動に力を入れてくださり、今、西太平洋地区からポリオはなくなりました。私も障害があっても困ることのない社会を創りたいと願い、先生に導いていただいて民間福祉活動をつづけています。ありがとうございました。

アメリカ・シアトルYMCA スタッフ研修受入れ

10月21日～11月3日、パートナーであるアメリカ・シアトルYMCAからSuzanne Bull (スザンヌ・ブル) さんが来神し、研修期間中は、各ブランチ訪問、またホームステイをされました。

スザンヌさんは、シアトルYMCAウエストシアトルブランチの副所長、会員募集活動責任者です。神戸YMCAの地域のなかでの独自性、非営利団体の運営するウェルネスセンターとしての特色、その実現のための全体組織、ウェルネスセンターのスタッフ募集と研修内容、予算管理などに関心が強く、マネジメントに関する深い質問が多くありました。神戸YMCAや日本のYMCAのマネジメントについて、ひとつひとつ丁寧に説明しつつ、会員制度の変容など、アメリカYMCAの運営や直面する課題について、私自身が、これまでシアトルやアメリカYMCA同盟の方々との対話のなかから学んできた事柄と比較しつつ説明をしました。特にブランディングについて、現場での受け止め方は多様なものがあることを気づかされました。スザンヌさんには、ウェルネス委員会への出席、神戸YMCAのチーフディレクター会議にも出席いただきました。ウェルネス委員会では、糖尿病防止プロジェクトと小児糖尿病という大きな社会課題へのYMCAの挑戦について、チーフディレクター会議では、シアトルYMCAの運営基準についてご紹介いただきました。スザンヌさんからお礼のメールがあり、多くの学びがあったこと、スタッフのホスピタリティーへの感謝とともに、神戸YMCAの女性スタッフのプロフェッショナルとしての育成に貢献したいとメッセージをいただきました。またスザンヌさんの上司からは、お礼とともに、次年度からの高校生交流とスタッフ交流への期待が送られてきました。
(本部事務局 尾上尚司)



ファミリーウェルネスセンターにて

ファミリーウェルネスセンター来館時はプログラムを見学され、9月オープンした真新しい施設とプログラムに関心を示されていました。YMCAという共通ミッションを持った同士が世界中にいるのだからということを確認させてくれました。
(中野卓磨)

余島の溢れる自然のなかで、驚き、笑い、真剣に語り合い、リラックスした時間を共有しました。少年少女キャンプ場がキャンプオカエラ(シアトルYMCAのキャンプ場)にそっくりであること、桟橋にしかけた蛸壺で、スザンヌさんが大嫌いな大蛸が取れたこと、様々な感動を共有することでお互いの距離も近づきました。また余島での夏キャンプ映像を鑑賞し、改めてキャンプが人々に与える影響を再確認しました。
(原田泰志)



ホストファミリーとともに

学園都市という地域にYMCAが根付くために多様なプログラムが展開されていることを感じいただきました。スザンヌさんの「学園都市会館に来ている人は皆さん笑顔が多いですね。」という言葉が印象的でした。
(藤井信人)

学園都市会館に認定こども園がオープンします

この春、学園都市会館に新しく「認定こども園」を開園します(予定)。地域の皆様やご家庭の皆様と手を携えながら、神様によって与えられた子どものいのちを大切に育てていきます。

名称：(仮称) 幼保連携型認定こども園 神戸学園都市 YMCA こども園
所在地：神戸市西区学園東町 2-1-3
定員：認可定員 90名 (利用定員 60名)
運営法人：社会福祉法人神戸 YMCA 福祉会

保育目標

★いきいきと自由に

子どもたちひとり一人が神によって創られた存在であり、それぞれにふさわしい個性を与えられ、それをのびのびと発揮して、かけがえのない今という時を、生かされていることを大切にキリスト教保育をします。

★やさしいところ、つよいいし、すこやかなからだ

神に愛され、守られていることの喜びを他の人に伝え、分かち合う心が育つよう保育します。自分で考え、判断して、行動していく力が育つよう保育します。安全な食材を使って調理し、栄養面とともに楽しく食事ができるように「食育」に取り組んでいます。年齢に応じた「体育あそび」や「園外保育」を積極的に取り入れ基礎体力づくりに力を入れています。

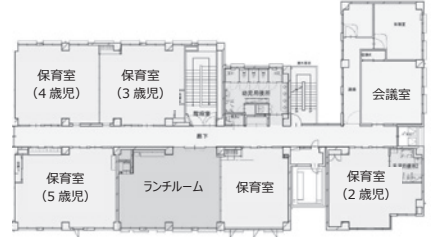
★みんなのものがひとつとなるために

家庭や地域の人びととの連携や交流を深め、身近なところから、世界平和を希求します。

- 【1階】
- ・保育室 (0歳児)
 - ・保育室 (1歳児)
 - ・調理室
 - ・乳児用トイレ
 - ・多目的トイレ
 - ・沐浴室
 - ・職員室
 - ・エントランスホール



- 【2階】
- ・保育室 (2歳児)
 - ・保育室 (3歳児)
 - ・保育室 (4歳児)
 - ・保育室 (5歳児)
 - ・保育室 (フリー)
 - ・ランチルーム
 - ・保育室
 - ・保育室 (2歳児)
 - ・乳児用トイレ
 - ・幼児用トイレ
 - ・大人用トイレ
 - ・会議室
 - ・休憩室



- 【3階】
- ・屋外運動場 (園庭)
 - ・多目的ホール



同盟表彰

永年にわたってYMCA運動発展に貢献された会員・職員の表彰が行なわれましたが、神戸YMCA関係者は以下の通りです。
(敬称略)

- 〔50年継続会員賞〕
中嶋南・柳谷利起・河野六郎
〔25年継続会員賞〕
杉本裕子・山本真智子・森岡佳子・水田博章・福永紀子・西井庸子・中山隆・玉田一成・敷島幸子・季村敏男・川口恵津子・紙谷富子・榎本朋子・岩崎禎子・藤見晃・渡辺正子・半田昌三・川口衛・石川繁乃・石川忠彦・浜野武史・岡本一郎・坂戸洋子・山中葉子・磯崎圭一・武土葉子・鉄川正枝・尾崎美千代・古家良・大森たみえ・布谷宏造・和田広子・長谷川千代・村上康恵・村上正信・中西すみ子・黒田八重子・大久保克秀・福田滋弘・原田浩・天谷美枝・天谷政昭・深井美智子・深井明比古・片山知栄子・宇野直弘・川上浩道・岡崎州男・加藤光信・吉田明・太田直樹・山下里江・下崎佐保里・越生純一郎・安井功・西田芳夫・飛田雄一・宗利富士子・浜田房子・林本美・平山ちづ子・池田誠・桜井恵・中田一夫・小野昌二・木村曉美・加藤郷子・万谷芳彦・前堀操子・松元あゆみ・上杉徹・大林杉雄・山田美恵子・清水平敏・小西孝治・坂部かよみ・丹家元陽・遠藤裕郎・馬場金司・石原哲朗・岡田佑一郎・岡本吉民
- 〔25年勤続者賞〕
村松佳美・西馬薫・田治杉子・小林智恵子・沙見葉子・大石恵理子・三島浩司・坂本滋・井上伸子・松森正樹・井上真二
〔青少年奉仕賞〕
多胡葉子・相浦和生・島田恒・鈴木肇・森紘一・熊谷親啓・中尾英輔・星野昌枝・森章一
- 〔第18回日本YMCA大会〕にて表彰

シリーズ いっしょのキャン

神戸YMCAは海外の6つのYMCA(シアトル、高雄、チェンマイ、大田、水原、天津)とパートナーシップを結んでいます。その内の一つ、韓国の大田(テジョン)YMCAとのパートナーシップ締結30周年を記念し、相互の交流を深めるために、2014年10月30日から11月2日にかけて、清水泰人副理事長、水野雄二総主事、松田道子主事と共に大田YMCAを訪問してきました。仁川(インチョン)国際空港から車で2時間半、韓国のほぼ中央に位置する大田広域市は、大田国際博覧の開催やハイテク団地を有する科学技術都市として知られており、四方を山で囲まれ、街には3本の大きな川が流れる自然豊かなところだ。

10月30日に開催された大田YMCAの理事会との交流会は、いささか緊張した雰囲気でしたが、お互いの活動を報告し、会が進むに従って和やかな雰囲気となり、積極的な意見の交換がなされていきました。この交流会で大田YMCAの訪問の中で特に興味深かったことが3つあります。第1に、大田YMCAによって韓国の参政権を18才に下げようとする(現在19才)運動が高校生たちと共に展開されているということ。高校生という立場で政治の世界と関係のないような感じもしますが、実際には教育行政や受験問題など高校生が政治に関わっている部分も多いわけですね。だからこそ、高校生が参政権を持ち、政治に関わるべきであるというのが、この運動の趣旨です。もう一つは、韓国語の古い言葉で「良い友だち」という意味を持つ「ラウナティ」プロジェクトです。このプロジェクトは、銀行が経済的に支援して7ヶ国に大学生を派遣し、国際ボランティア活動をおこなっているというものです。1年2回公募され、毎回およそ2,000人が応募し、その内から30人が選出されます。その選考では成績や言語能力だけでなく、これからの世界の未来を担いでいこうとする積極性が重視されているということでした。第3に、学校と教育庁とYMCAが連携して、停学になった中高生たちが大田YMCAに来て、復学に向けてカウンセリングを受けるといふプログラムです。毎週10人程度の生徒がYMCAに来ていっていること。学校の先生、親だけではなく、直接関係のないYMCAがこのような役割を担っていることは重要なことだと思います。10月31日の「パートナーシップ締結30周年記念式典」では、たくさんのご馳走が用意され、幼稚園児のチャングや中高生の弦楽アンサンブルの演奏もあり、非常に楽しく、また友情を感じる中で、今後も交流を続けていくことを確認しました。11月1日はもう一つのパートナーYMCAである水原(スウォン)YMCAを訪問し、様々な活動を拝見し、理事会とも交流させていただきました。

今後、このような国際的なパートナーシップをどのように実質化し、もっと互いに身近に感じることができると期待しています。YMCAに集う高校生・大学生同士、会員間の交流が期待されること。神戸YMCA理事長 中道基夫



- ファミリーウエルネスセンター ☎078 (241) 7202
- YMCAホームヘルパーの事務所 ☎078 (241) 7237
- ランゲージセンター ☎078 (241) 7204
- 専門学校 ☎078 (241) 7203
- 西宮YMCA ☎0798 (35) 5987
- 三田YMCA ☎079 (559) 0075
- 余島野外活動センター ☎0879 (62) 2241
- デイキャンプ&コミュニティサービス(兼キャンプ事務局) ☎078 (241) 7216
- 国際・奉仕センター ☎078 (241) 7204
- ウエルネスセンター学園都市 ☎078 (793) 7401

CARING
Y
M
C
A
RESPONSIBILITY

Information

- 西神戸YMCA ☎078 (793) 7402
- 西神戸YMCA ☎078 (993) 1560
- 須磨YMCA ☎078 (734) 0183
- YMCA保育園 ☎078 (794) 3901
- 西宮YMCA保育園 ☎0798 (35) 5992
- 西神戸YMCA保育園 ☎078 (792) 1011
- YMCAちとせ幼稚園 ☎078 (732) 3542
- 西神戸YMCA幼稚園 ☎078 (997) 7705
- 西宮つとがわYMCA保育園 ☎0798 (26) 1016

YMCAセミナー (陣内大蔵チャーチコンサート)

2014年度YMCAセミナーは、陣内大蔵さんを招き、歌とトークを交えての平和を想うひと時とし、11月7日(金)の夕べに日本基督教団神戸栄光教会にて開催しました。陣内さんは、シンガーソングライターであるとともに、牧師家庭で生まれ育ち、2010年からは日本基督教団東美教会の牧師でもあります。今回、歌の賜物のみならず宣教者の賜物をものびのびと発揮なさっておられたと感じました。



様々な楽曲を演奏いただきましたが、その曲ができるまでのプロセスや、これまでの人生で経験されたことを交えながら、神様のメッセージも語ってくださいました。そして折に触れて「ある人にとって平和だと感じるものが、別の人には平和ではないかもしれない。平和って何なのでしょう？」と問いかけてくださる様子が印象的でした。YMCAではこれからも様々な形で皆さんとともに平和を考え、創る機会を持ちたいと思います。なお、今回の収益2,861円はYMCA国際協力募金に捧げさせていただきます。

神戸キリスト教青年会ミッション委員会 委員長 古澤啓太

第3回 KOBE中高生 Sweetsコンテスト

11月9日にユースプラザKOBE・EASTで「第3回KOBE中高生Sweetsコンテスト」を開催しました。10組の中高生チームが、それぞれの思いを込めて作ったオリジナルケーキを持ち寄り、作品に関するプレゼンテーション、審査委員による試食、出場者の互選により審査を行い、第3位までを表彰しました。



わたしたちの 難民問題開催

神戸YMCAでは、難民事業本部関西支部と共催で「わたしたちの難民問題Vol.15」を開催しました。紛争や迫害から逃れ、不自由な生活を強いられている難民や国内避難民が、世界各地に5,100万人以上いると推定されています。日本にもさまざまな国から難民が庇護を求めて来ています。難民本人、支援者のお話を聞き、わたしたちにできることは何か、参加者の方々とともに考える機会を設けました。



YMCA地球市民国際フォト・動画コンテスト2014

「YMCA地球市民国際フォト・動画コンテスト2014」に入賞しました！神戸YMCAの日本語学科の余島キャンプの写真が銅賞を、また、シアトルエクステンジブプログラムの写真が協賛企業賞を、いただきました。おめでとうございます！！



協賛企業賞
「～こころとからだの開放～
“世界にとびこむ”
達 直樹



銅賞
「日本上陸！」
井上真二

台北YMCA・彰化YMCA スタッフ来神

日本語教育を通して協働をしている台湾／台北YMCAと彰化YMCAから、神戸YMCAの日本語教育の現場を学びにこられました。より一層の協働がすすみますように！



HIAからの 研修生

兵庫県国際交流協会が招いている中国からの研修生を受け入れました。現地の大学で日本語を教えている教員が、神戸YMCAの日本語指導法を勉強されました。

林 明懐さん (中国・海南省)



天津YMCA訪問団来神

11月10日～16日、神戸YMCAのパートナーである中国・天津YMCAの訪問団が来日しました。2001年のパートナー締結以来、訪問団交流、国際キャンプ、東アジア3カ国サッカーなど様々なかたちでアジアの草の根交流を行っています。今回訪問では、2015年に迎える天津YMCA120周年記念プログラムでの平和への歩みなど、多国間でのYMCAの繋がりをさらに深めることを話し合いました。神戸市市長室を訪問、また、京都・奈良・大阪と関西の文化・歴史に触れたり、紅葉の素晴らしさを満喫されました。



第31回タイワークキャンプ参加者募集

神戸YMCAでは、国際協力募金運動のプロジェクトとして、タイ・チェンマイYMCAとの協力のもと、1984年よりタイ北部農村でワークキャンプを行っています。世界のグローバル化が進む今日、幅広い視野と世界観を持ち、異文化(違い)を尊重しつつ、自分の意見を伝えられるユースが求められています。このキャンプでは、タイ、ラオス、ミャンマー、日本のユースが参加し、グローバル的な課題である環境への取り組みを中心に、現地の子どもたちへのプログラム提供や学習環境づくりを行います。



日程：2015年3月21日(土)～3月30日(月)
対象：テーマに関心を持つ高校生以上のユース
問合せ：国際・奉仕センター TEL 078-241-7204
申込締切：2015年2月6日(金)

★★ 個人消息 ★★

- 【ご結婚】
おめでとうございます
10月12日
宇都宮 綾香さん (西神戸YMCA保育園)
谷村 康彰さんと
- 11月2日
天羽 裕美さん (西神戸YMCA保育園)
山田 俊介さんと
- 11月22日
大久保 佑菜さん (YMCA保育園)
岡平 孝司さんと

